

アジスロマイシン点眼のマイボーム腺機能不全に対する長期成績-多施設共同研究-

有田 玲子^{1,2)}, 福岡 詩麻^{2,3)}

伊藤医院¹⁾, LIME研究会²⁾, 大宮はまだ眼科西口分院³⁾

【目的】アジスロマイシン点眼（AZM）はマイボーム腺機能不全（MGD）の国際ガイドラインでStage 2の治療薬である。日本では2019年から処方可能となり、眼瞼炎に伴うMGDへの安全性と有効性が示されている。今回、私たちは、リアルワールドにおけるAZM投与日数や複数回処方時の投与間隔、複数回投与を要した症例の特徴などをレトロスペクティブに検討した。

【対象と方法】対象は、2019年9月から2022年2月末までに伊藤医院と大宮はまだ眼科西口分院でAZMを投与し、AZMの効果を認め、3カ月以上経過観察できたMGD患者515名（男性166名、女性349例、57.1±16.0歳）。調査項目は、年齢、性別、初回投与時の眼瞼縁所見、マイバムグレード、自覚症状、AZM投与日数、複数回投与症時の投与間隔、併用療法とした。

【結果】AZM初回投与日数14日間306例、28日間209例、AZM投与回数は1～5回（平均1.3回）、1回のみ投与が75%、2回以上が25%、複数回投与時の間隔は平均139±100日。約90%の患者が温罨法とリッドハイジーンを行い、ステロイド点眼（35%）、ドライアイ点眼（24%）を併用していた。複数回投与症例は1回のみ症例に比べて、初回投与前の眼瞼縁所見、マイバムグレード、自覚症状スコアが有意に高かった（各 $p<0.001$ ）。

【結論】75%の患者はAZM1回処方とマイボケアの併用で自覚症状、他覚所見ともに改善が見られた。初回処方時の重症度とAZM投与回数に関連があった。

【利益相反公表基準：該当】有

【IC：取得】有

【倫理審査：承認】有